

## 生徒指導と日常的な支援 指導との連携

### 生徒指導の実態

- 今年度生徒指導上の指導困難事例が12月現在34件
- 指導困難事例の対象となった生徒の延べ人数70名、対象となった生徒33名
- いじめ、暴言、暴力が16件、指導不服従が7件、金銭問題が3件、無断外泊が2件、性的不良行為が1件、不適切行動が2件、窃盗が1件
- 別室指導を行った回数19回
- 問題行動には、思春期としての心の揺れや、人間関係や環境が広がる中でのトラブル、発達の凸凹や障害特性、社会性の育ち、自己コントロールの問題からくるトラブルなど様々な要因が絡んでいる。
- SNSを介したコミュニケーショントラブル、長期休業後の生活リズムの乱れからくるトラブル、集団随伴性の傾向からくる集団トラブル

### 実践の成果

- ①生徒指導部でその都度共通理解を図りながらチームで指導に当たる。
- ②学年との連携 問題行動の背景にある部分も含めての情報収集。
- ③支援研修部のWISCをはじめとしたアセスメント、障害と問題行動との関連についての分析や生徒理解に基づくアプローチの検討。
- ④学びの姿勢や基本的な生活習慣など授業や、ルール理解を通して生徒に身につけさせる働きかけ。
- ⑤家庭子供センター、医療、過去の在籍校、警察との連携 連携に関して支援研修部との情報共有。
- ⑥特別指導プログラムの中での目標の共有 働きかけの検討。
- ⑦特別指導委員会では、問題行動の中身、本人の特性、家庭、学校生活の様子などを検討し、課題を明らかにし、謹慎や取り出しの指導での目標や、目標達成に向けての指導の手立てを検討した。
- ⑧特別指導後も必要な生徒には継続指導、支援研修部による個別指導（自立活動）を行った。
- ⑨校内支援委員会を週1回開き、生徒の情報交換と、生徒によってケース会議を開き長期的な視点での指導支援を検討した。

### 実践の中で自分が学んだと思うこと

- 情報共有、チームの共通理解に基づいた生徒への働きかけの重要性。（協働のためのコミュニケーション、調整する力）
- 多面的な視点での情報収集と自立活動の視点によるアセスメントの重要性。
- 一回で終わるのではなく、生徒の育ちを共有しながら一貫性のある指導を継続する重要性。
- 関係諸機関とつながり、それぞれの役割を発揮する中で問題を解決していくこと。

### 実践活動の今後に向けて

- 生徒指導の実践を進めるにあたって「生徒理解に基づく生徒指導」を基本とし、アセスメント、特性理解と支援指導の観点を大事にする指導を行う。
- 中心に生徒本人を置いて、生徒指導部、学年、保護者、支援研修部が連携しながら支援体制づくりを行う。
- 生徒指導問題を問題行動といった一面だけで捉えず、本人の困り感、社会生活を送っていく上での課題と捉え、トータルに支援指導していく枠組み。

### 地域支援づくりへの提案

- 具体的な支援の展開とネットワークの形成。教育支援計画を共通の情報源として活用する仕組みづくり。様式の検討（地域ごとの特徴も反映させて）
- 支援を必要としている児童生徒の掘り起こしを行っていくための体制と仕組みづくり。
- 地域支援ネットワークにおける、研修や研究の充実。
- 高校通級が始まる中で、中・高に情報をおろし、縦の連携の構築。